

第七次土岐市総合計画について

1. 第七次土岐市総合計画の構成

- 第七次土岐市総合計画も現行計画の構成を踏襲し、市のまちづくりについての考え方や将来像、方向性を示す基本構想と、具体的に実施する事業を整理した実施計画の2部構成で作成します。

2. 第六次総合計画からの変更点、ポイント

【総合戦略を包含した総合計画の策定】

- 第七次総合計画は、まちの活性化と人口対策について重点的に市が実施する対策を整理した総合戦略（デジタル田園都市国家構想総合戦略）と、土岐市の最上位計画であり、今後10年間で目指す指針や取組事業を整理した総合計画を合わせて策定します。
- 総合戦略を総合計画の重点戦略として位置付け、総合計画の事業と連動しながら実施します。
- 総合戦略を包含した総合計画とし、総合戦略と総合計画の位置づけ・関係性を明確にし体系を簡素化することで、取組むべき事業をわかりやすくするとともに、事業評価、指標管理などの進行管理を明確化します。
- 土岐市国土強靱化計画は、防災に関する方針等をまとめた計画であり、総合計画同様、分野を横断した計画です。土岐市国土強靱化計画も、令和7年度に計画期間を終了することから、第七次総合計画と整合を取り、一体的なものとなるよう策定します。
- 実施計画の中で、基本目標に基づく施策を整理します。実施計画の中で基本目標から施策、事業へとつながる事業の体系を明確にすることで、各施策の事業担当者が異動しても業務の継続性を担保し、事業評価にかかる負荷を軽減することで、事業の実施に、より注力します。
- 施策や事業を実施計画に位置付けることで、毎年度、施策、事業の進捗の確認をすることが可能です。また、計画期間の中間地点での施策、事業の見直しについても、実施計画の見直しに重点を置いて進めることができるため、評価業務を効率的に行うことが可能です。

【総合戦略の位置づけ】

- 総合戦略は、実施計画の重点戦略として位置付けます。
- 実施計画の中に重点戦略を位置付け、実施計画は毎年度事業の評価を行うことで、重点戦略の事業内容等を臨機応変に修正しやすくなります。
- 土岐市の将来像を実現するために、より注力して実施していく取組を各施策の事業から検討し、抽出、重点戦略の取組に位置付けます。
- 重点戦略の中で、KPI（重要業績評価指標）を設定し、事業の評価を行います。

総合計画と総合戦略

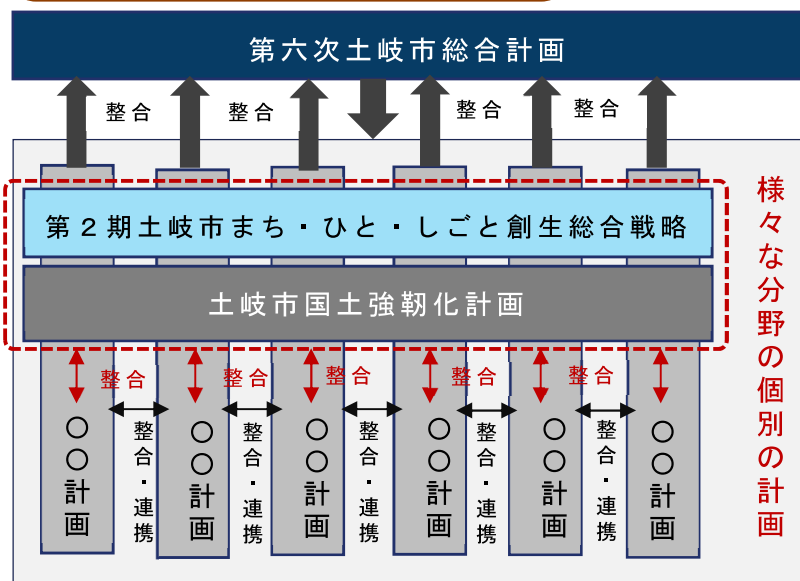
<総合計画とは>

総合計画は市に関わる全ての人が目指す方向を示す計画です。
市の将来像から、すべての分野に渡る市の取組が示されています。
市の最上位計画であるため、個別計画は総合計画の示す方向性に従って策定されます。

<総合戦略とは>

総合戦略は、市を活性化し、市の人口減少を抑制することを目指す計画。
第2期までは、まち・ひと・しごと創生総合戦略でしたが、第3期以降は、国の方針として、さらにデジタル技術を活用する視点を加え、「デジタル田園都市国家構想」と名称が変更されました。

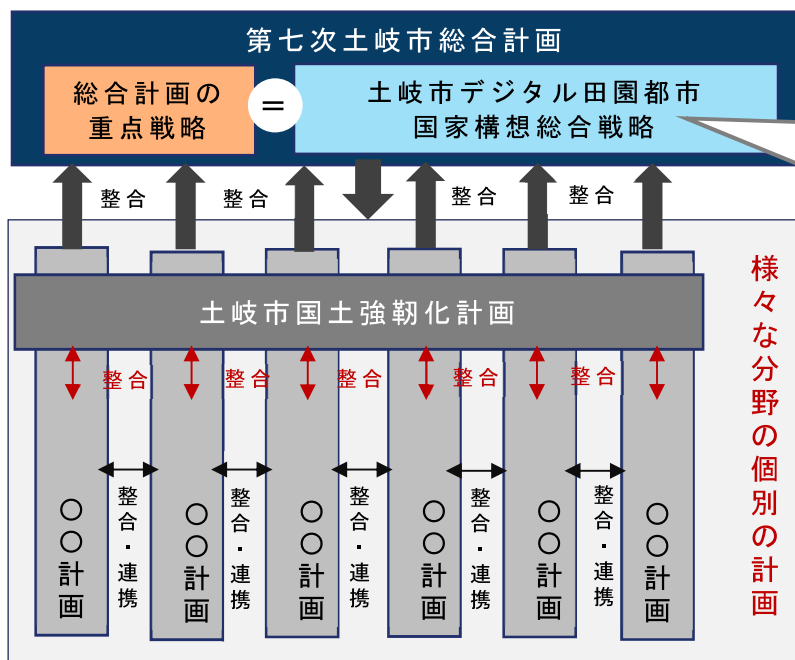
これまでの各計画の位置づけ



<各計画の位置づけ>

- 総合計画を最上位計画とし、その下位計画として、個別の計画があります。
- 総合戦略や国土強靱化計画は、分野を横断して、人口増加や地域の活性化、防災と言った視点で、施策を取りまとめている計画です。

これからの各計画の位置づけ



土岐市の最上位計画である総合計画の重点戦略が、土岐市総合戦略と合致

<各計画の位置づけ>

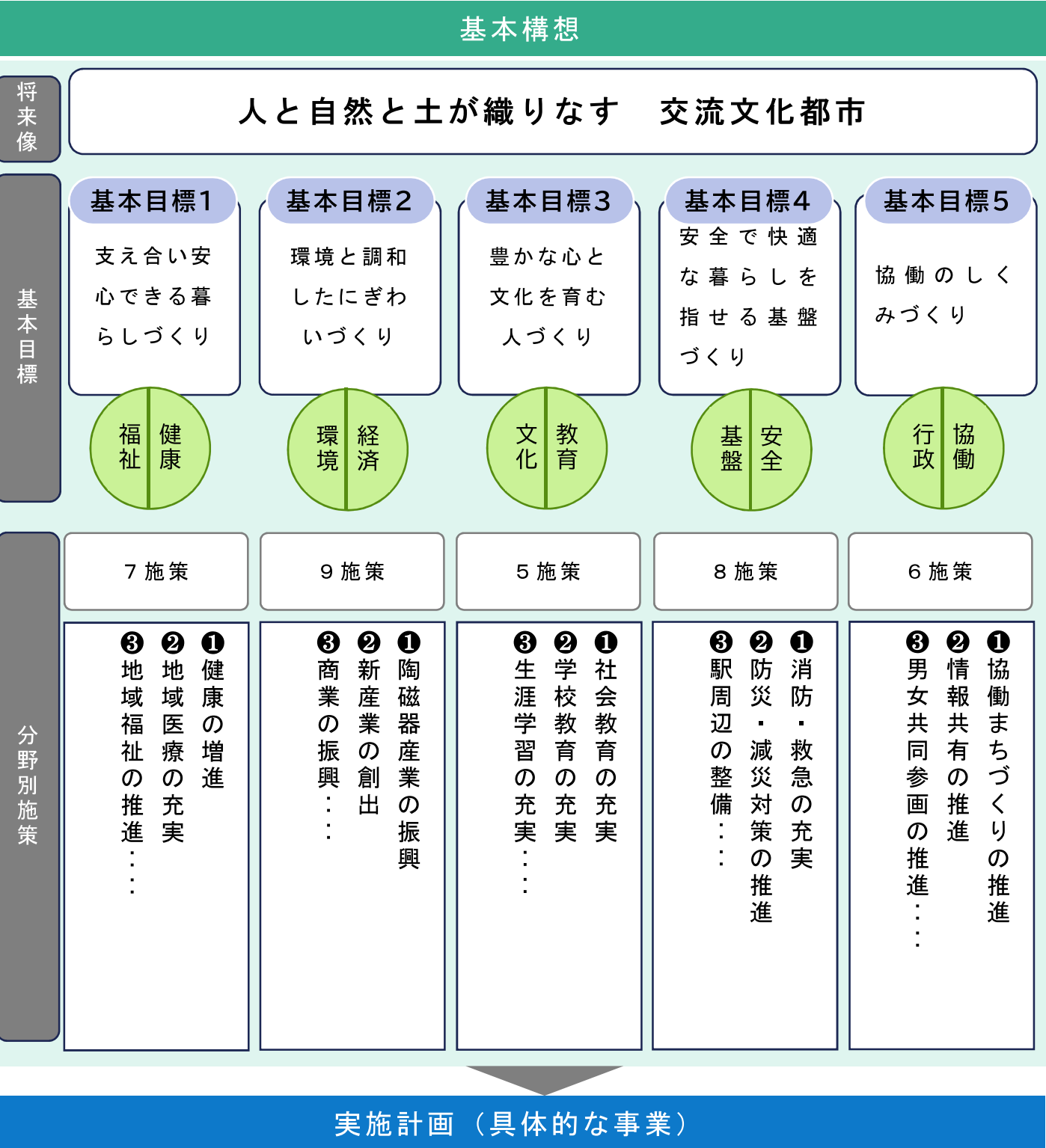
- 総合計画の重点事業を、重点戦略として位置付けています。
- 重点戦略＝総合戦略として、総合戦略を包含した総合計画の下位計画に、個別の分野の計画があります。

第七次土岐市総合計画の構成の見直し（案）

※第七次総合計画の将来像や基本目標は現行計画を踏襲した仮のものになります。

- 変更点● 基本構想は方向性、考え方を示すものとし、具体的な施策・取組に関することは実施計画で整理します。
- ・分野別の事業を横断し取り組む施策として、人口減少社会への対応や、土岐市の活性化に関連する施策を重点戦略として位置付けます。さらに、重点戦略は、土岐市の総合戦略として位置付けます。
 - ・施策を基本構想から実施計画へ移動します。基本目標→施策→事業の構成が実施計画内で整理され、わかりやすくなります。

現行計画の構成



次期計画の構成(案)

